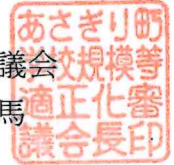


令和4年10月25日

あさぎり町教育委員会
教育長 米良 隆夫 様

あさぎり町学校規模等適正化審議会
会長 甲斐 龍馬



あさぎり町立小学校の適正規模及び適正配置について（答申）

あさぎり町学校規模等適正化審議会では、令和3年6月22日にあさぎり町教育委員会から諮問を受け、8回にわたり審議を重ねてきました。

審議会では各委員から様々な意見をいただきましたが、このたび、あさぎり町立小学校の適正規模及び適正配置について、一定の意見の集約を見ましたので、下記のとおり答申します。

記

1 諮問事項

- (1) あさぎり町立小学校の規模の適正化に関する事項
- (2) あさぎり町立小学校の配置の適正化に関する事項

諮問理由

国立社会保障・人口問題研究所による本町の将来人口推計では、2020年度総人口 14,330人から2040年度総人口 9,798人と31.6%減少しています。

特に、14歳以下の人口は、2020年度 1,906人から2040年度 1,187人と37.7%と減少率は大きくなります。

このことで、町内小学校では、複式による学級編制の課題が、広がってくる可能性が高くなります。

また、本町の小学校校舎の建築年度は、昭和48年度から昭和55年度の8年間に集中しており、建物の大規模改修や建替えの必要が高まっています。

新しい時代に対応した教育環境を整備するために、本町小学校の適正規模・適正配置をどのようにしていくのか全町的な視点に立って検討しなければなりません。

2 答 申

町内の小学校は、地域コミュニティの核としての性能を有しており、地域振興に欠かせない役割があるため、今後、少子化により複式学級の編制となっても5校を残すことが望ましいとする。

その中で町内の小学校の多くが建築後40年を経過し老朽化が進んでおり、学校施設を利用する児童等の安全確保が喫緊の課題であり、併せて今後も地域の拠点施設として活用していくためにも、現代の社会的要請に応じた学校施設の改修を早期に実施できるよう検討する必要がある。

なお、将来人口推計では児童数2022年度812人から2040年度491人と40%の減少が見込まれることから、教育環境の変化を注視しながら、将来に向けては統合も視野に入れる必要があると考える。

3 経 過

(令和3年度中間答申までの審議会の経過)

- ① 第1回会議 令和3年 6月22日
- ② 第2回会議 令和3年 7月27日
- ③ 第3回会議 令和3年 8月24日
- ④ 第4回会議 令和3年 9月28日
- ⑤ 第5回会議 令和3年11月24日

(令和4年度最終答申までの審議会の経過)

- ① 第1回あさぎり町学校規模等適正化審議会
日時 令和4年6月28日 午後7時～
場所 生涯学習センター「大会議室」
内容 経過報告、中間答申について、小学校の状況について
- ② 第2回あさぎり町学校規模等適正化審議会
日時 令和4年7月26日 午後7時～
場所 生涯学習センター「大会議室」
内容 最終答申に向けた意見集約について
- ③ 第3回あさぎり町学校規模等適正化審議会
日時 令和4年8月23日 午後7時～
場所 生涯学習センター「大会議室」
内容 最終答申について

4 審議会の主な意見

- ・ 地域住民の核となっているので、今のところは5校残してもらいたい。
- ・ 現状では5校残すべきだと思うが、将来統合するとしても時期を決めるのは難しい。
- ・ 校舎改修については、優先順位をつけて取り組む必要がある。
- ・ 児童数が減っていく状況を考慮した校舎改修を行っていく必要がある。
- ・ 統廃合となった場合でも、校舎が地域の拠点として利活用できるような改修を行うことで無駄な投資とはならない。
- ・ 将来人口が1万人をきる予測があるなかで、5校を維持することは難しい。児童数や年度で統合するという数字を盛り込むべきではないか。

- ・ 将来を考えると、永久に5校を残すことは不可能だと思う。将来、統合を検討する時期については、町の施策を考える上でも、人数ではなく年度で考えた方が良いと思う。
- ・ 5校残したい気持ちもわかるが、統合することによって子ども達にもメリットがあるのではないか。
- ・ あさぎり町に住みたいという人がいても住む場所がないのが、人口を増やすための課題と思う。
- ・ 町の人口流入、子育て施策など町独自の施策を打ち出して欲しい。特に複式学級が懸念される須恵・深田校区については、町営住宅等の建設による人口減少対策を行って欲しい。
- ・ 統合については、若い世代を中心に広くアンケートを取って意見集約を実施して欲しい。

5 むすび

この答申は、少子化の状況の中で、あさぎり町の児童の社会性を育み、児童の健全な成長を目指す教育環境が如何にあるべきか、同時に各地域のコミュニティの核としての重要な役割を担う存在である小学校について、全町的、長期的視点に立ち、当面する課題を踏まえて審議を重ねてきた結果をまとめたものである。

あさぎり町立小学校の適正規模及び適正配置については、今後も遅滞なくまた必要な検討を行い、審議会の中で継続的に調査審議を行い、町民の理解と協力を得ながら対応されるよう希望するものである。